

「分科会設定のお仕事」メモ

峯岸 昌弘

2016.8.4

●はじめに

大会では「分科会設定」も担当しました。こちらに関しては完全に補助的な感じで僕の名前があったのだと思うのですが、主に仕切ってくださっていた中さんと大久保さんが、「こういうのはさ、ベテランの同じ人がずーっとやるんじゃないかって、やっぱり地元の人がやらないとダメだと思うんだよ。もちろん、初めてでいきなりは無理だから、やったことのあるボクらが助けるけどさ」とのことで、たまたま前日準備のときにいて名前があった僕に白羽の矢が立ち（同じく担当に名前があった森さんは、臨海学校で参加できなかったの）、結局、僕が全体会で前に出て仕切る、ということになってしまったのです。

けれど、この仕事は、夏の大会に出たことがあって、それなりに知っている人じゃないとできない仕事だったので、よかったかもしれません。でも、できれば次回から、「分科会設定の担当になる人は〈前泊できる人〉」としておいた方がいいと思います。その理由を今から書きます。（この他、分科会設定の担当は、全体会で使う大きな表示板も作らねばならず、こちらは小澤さんを中心に、別部隊で動いていただきました）。

●前泊での作業

まず始めに、前日の午後8時ぐらいを目処に、資料系の森下さんが、その時間までの登録資料を一覧表にして用意してくれました。

それを使って、大久保さん、中さん、森下さん、峯岸で、「仮の分科会設定」と、担当者を決めていく作業をしました。

決めていくのに重要なのは「前情報」です。森下さんのところに届いているものと、それぞれの知り合いからの情報を混ぜ合わせて検討していきます。

最初に、必要な分科会数をカウントすることから始めます。この資料数だと「1コマ」で行けるとか「いや、2コマは必要」とか。

で、仮に「物性（2）」「燃焼（1）」「ものづくり（2）」「算数・数学（3）」…とか、ちょっと余裕をもって数えていきます。

それと同時に、「その分科会で司会をしてくれる人」もある程度決めていきます。

司会を誰にするかというのは、基本的に「その分科会にたくさん資料を持ってきている人」とか、「その分科会の司会の経験者」とか、「司会をします」と言っている人などで決めていきます。

2つの分科会で司会をする人もいるので、これを先に決めておかないと、後で組むときに困ることになるのです。

次に、使える部屋数とコマ数を数えていきます。その際、ホテル担当の河合さんにも来ていただいて、部屋が使えるか、分けられるかなど、相談に乗ってもらいました。「全部で25コマ」とか。

そうして、使えると決まったコマ数に、今度は部屋の大きさなども考えて、さきほど決めた分科会を当てはめていきます。

例えば、分科会での必要コマ数を全部足した数が30コマだとしたら、どうしても部屋数は足りないということになります。

そこで、別々の分科会を一緒にしなければならなくなったり、「ここは1コマでやってもらおう」とか、「お楽しみ分科会で発表してもらうことはできないか」となどと検討していきました。

そういう「この資料はどこで発表してもらおうか？」というのを判断するのは、資料を発表する本人に聞くのが一番で、前泊している人にはたずねるし、知り合いには電話して聞いてみたりしました。

(伊香保大会では、本部と売り場が同化していたため、本部で作業していたのですが、聞こうと思った人がみんな売り場にいたので、とてもスムーズでした)

そうして、ようやく「分科会設定(仮)」ができあがりました。制作に2時間くらいかかりました。

どこで発表するのかわからない資料や、資料も少なく小さすぎる分科会は保留にし、全体会の場で、「どこで発表したいですか？」と聞くことにしました。

でも、これはあくまでも仮設定。全体会で大きく変わることがある、というか、決めるのはあくまでも「全体会の場」であって、これはその場で混乱しないための単なる準備です。

大変ですが、そこがこの研究会のいいところだし、こっちが都合で勝手に決めてしまっただけで、本人たちの意欲が無くならないように、ということに細心の注意を払っている中さんと大久保さんの姿にたくさん学びました。

そして、いよいよ最初の全体会、分科会設定当日！なんと、そこでガラッと変わることになりました(笑)

●分科会設定で

そうやって、仮に作られた分科会設定案ですが、今大会では、最初の全体会が始まる前から会場に掲示されていました(!)。

「え！？もう出ちゃっているの？」とビックリしました(例年は、途中から幕が開いて出てきたりするので・笑)。

でも、そのおかげで、分科会設定の話が始まる前に変更願いが相次ぎ、品川さんがマメの話をしている間に、中さんと大久保さんと相談して、いろいろと対応していただきました。

始まってから焦る必要がなくなったので、逆によかったかもしれません。

また、やっぱり、「資料の申し込み」が直前にどーんと来るので、それで変更があったのかもしれませんが。(僕はこの時、まだ売り場でガリ本ダービーの準備をしていたので、話に参加できませんでした)。

中さんから簡単な変更点だけ聞いて、僕が前に出て説明をする直前に、中さんが「貼り直しになったから、〈これはウソです!〉って言うとウケるよ」とギャグのアドバイスまでくれました^^;

僕にそんな余裕は全然ありませんでしたが、そのまま言ったら本当にウケたので、少し落ち着けました(笑)。

この時にもものすごく助けられたのは、「資料一覧」が1枚になっていたことです。森下さん、ありがとうございます(涙)

これは非常に画期的だ!と、この時初めて気付きました。今回、分科会設定がスムーズにいったのは、これによって説明が端的にできたことだと思っています。

(僕は、「配るときにラクでいいな〜」ぐらいにしか思っていませんでしたので、分科会設定の説明をするときに一人で感動していました。)

一覧表の最初から、「この分科会は1コマです」「次の分科会は2コマ」「この分科会とこの分科会は合わせて1コマとしました」などと言って、まず説明をしていきました。分科会ごとに資料が並んでいて、分科会としてのまとまりが一辺に目に入るサイズで見やすかったので、自分の資料を「どこで発表しようか」というのが一目瞭然になり、説明する方だけでなく、分科会を選んだり、把握したりする参加者側にもわかりやすかったのが、大きかったと思います。

その時に、「お楽しみ分科会」の主旨を説明し、その後で、どうしても小さくなってしまいそうな分科会の資料を「この資料は、どこで発表しますか?」と聞いて、「お楽しみ分科会」に行ってもらったり、別の分科会で発表することにしたりと、本人に選んでもらう形で、小さい分科会を作らずに分科会設定をしていくことができました。

その後、分科会の司会をお願いした方々から、分科会の内容の簡単な説明をしてもらいました。犬塚さんから「教師論分科会」と「西川さん分科会」は出る人が迷うだろう、というご意見をいただき、その場で挙手をしてもらいましたが、半々の手の上がりようだったので、結局、分けたままやることにしました。

分科会の司会をお願いした人には、いろいろとトラブルがあったようで、ご迷惑をおかけしたこともありましたが、司会をするというのは絶対ではなくて、分科会の中で相談して決めていただければ、本当は一番いいのだと思います。

(ある程度は決めておかないと動けないと思うので、お願いしているのだと思っています。そのあたり、参加者の方も理解してもらいたいなあと思っています。)

この全体会で、最初の分科会と、2日目の午前中の分科会は決定となります。思っ

ていたよりずっとスムーズに行きました。一覧表はもちろんのこと、前日から根回しもしっかりしておいたのがよかったです。

今回のファインプレーはこれだけではなく、分科会内容を説明してもらっている間に、「分科会の一覧表」が出来上がり、「全体会の外で配布できたこと」(!)。これには驚きましたが、森下さんの気合いを感じました。ありがとうございました。

●その後の微調整について

最初の全体会で、大まかな流れは決まりましたが、やっているうちに不都合も出てきます。1コマで設定していた分科会が終わらなかった時などです。

そこで終わらなかったからといって、同じ部屋で延長してしまったら、次の分科会の予定が押してしまいます。

ですので、最初の全体会の時の分科会設定で、「延長の場合は、改めて会場を設定します」というお願いをしておきました。司会者のみなさまの協力もあり、延長になったのは「科学読み物」の分科会だけだったと思います。

2日目の全体会の時に、分科会の再設定をしましたが、「科学読み物」は少人数だったこともあり、体育分科会をやる予定だった9階ロビーの逆側を使ってもらうことでまとまりました。

また、この時に、川島さんから「お楽しみ分科会」の主旨説明をあらためてしてもらったのがよかったです。

そして、この時に「アンコール分科会」についても、ちゃんと説明をしてもらうべきだったと思いました。前にも書きましたが、僕個人としては、アンコール分科会は、その内容から、お楽しみ分科会でもいいのではないかと、思いました。今後は、その当りをハッキリさせた方がいいと思います。

また、その時には決まっていなかったのですが、2日目の午後の全体会が終わった頃に、板研分科会を、「各授業書に分けて分科会をする」ということが決まったらしく、その報告をする場所がなかったため、夕食のときに、大久保さんと峯岸で時間を分けてアナウンスしました。あとは、小澤さん達がつくってくれた張り紙を見ればわかるようにしていただきました。

このあたりは、分科会での研究の流れもあるので、臨機応変に考えました。あとは、みなさんにどう周知してもらうかだなあと思いました。

その他、アンコール分科会や、お楽しみ分科会は、3日目に大きい会場でできると、人が集まっていいかもしれないなあと思いました。こういうのは、臨機応変も大事ですが、大会のテーマにも関することなので、あらかじめ決めておいてもいいのではないかと、思いました。

おわり